



涙の手前

涙は、悲しいときに出るものだと思われている。
けれど、そうでない場所でも、先に滲むことがある。

理由を言い当てる前に、
視界だけが、わずかに揺れる。

耐えていたはずの出来事では、何も起きない。
そのまま、通り過ぎる。

けれど、無関係な一文や、
誰かの声の断片に触れたとき、
別の場所で、先に何かが動く。

当事者ではない角度のほうで、
内側の一点に、届いてしまう。

出そうになって、戻る。
戻って、また滲む。

説明しようとする、消える。
名付けようとする、整う。

そのたびに、少しだけ遠のいて、
また同じところに戻ってくる。

涙は、感情ではない。

保っていたものが、
保たれなくなる、その直前。

壊れたわけではない。
崩れたとも言い切れない。

ただ、保っていた側が、
一瞬だけ、それをやめた。

内側にあった形が、
形のままでいられなくなり、
そのまま外に触れた。

それが何だったのかは、
あとからでは、辿れない。

涙になる前に、
すでに、何かは終わっている。